

核セキュリティに関する IAEA 国際会議(2024 年 5 月 20 日)における 辻外務副大臣演説(和訳)

共同議長、
事務局長、
御列席の皆様、

演説に入る前に、イラン政府、イラン国民、そして、ライースィ大統領及びアブドラヒアン外務大臣を含む不時着したヘリコプターの搭乗者のご遺族に対して深甚なるお悔やみを申し上げます。我々の思いと祈りは皆様とともにあります。

日本国政府を代表し、IAEA 主催の第4回核セキュリティに関する国際会議の開催を歓迎するとともに、共同議長に謝意を表します。

遺憾ながら、閣僚宣言案はコンセンサスを得られませんでした。日本は共同議長声明を全面的に支持します。この声明は、核セキュリティに対する共通のコミットメントを示すものです。

1. 原子力の平和的利用の拡大と核セキュリティ強化の重要性

現在、各国におけるエネルギー需要の増大や脱炭素の世界的潮流の中で、原子力発電への国際社会の関心が高まっています。IAEA とベルギー政府が3月に共催した第1回原子力エネルギー・サミットは、その好例です。

一方、核テロの脅威は依然として国際社会の安全保障に対する最大の課題の一つです。

原子力の平和的利用が拡大するのと並行して、その利用を進める各国は、非国家主体への核兵器や核物質の拡散リスクといった核セキュリティに対する認識を向上させ、最高水準の核セキュリティの確保に向けて取り組んでいく必要があります。

唯一の戦争被曝国である日本は、昨年G7広島サミットを開催し、原爆投下による惨禍を二度と繰り返してはならないという強いメッセージを世界に発信しました。

また同時に、核セキュリティをとりまく環境も変化しています。昨今では、新型炉の開発が進むなど、原子力技術の活用方法は拡大しており、そういった新たな技術の出現に伴う核セキュリティ課題についても目を向けていく必要があります。

また、ロシアによるウクライナ侵略は、原子力施設への攻撃のリスクという課題を改めて提起しています。この点について、IAEA 事務局長による「原子力施設の安全及び核セキュリティに関する7つの柱」が損なわれるべきではありません。

この観点で、引き続きウクライナと共にあるとの我が国の立場は不変であることを示すためにも日本は「核セキュリティ国際会議：未来を形造るもの(ICONS 2024)ウクライナに関する共同声明」の共同提案国となりました。

2. 核セキュリティ強化に向けた日本の取組

最高水準の核セキュリティの確保に向けて、日本は、核物質防護条約及びその改正の普遍化を支持するとともに、実際の現場における取組を進めてきました。

例えば、日本は、2022 年に原子力施設に対するコンピュータのセキュリティの規制要求を大幅に強化したほか、昨年までに、放射性物質を使用する全ての事業者に入り入り検査を実施し、法令で定めた核セキュリティにかかる措置が適切に講じられているかを確認しました。

今後、検査を通じて得られた知見を踏まえ、国内規制の更なる改善を予定しています。

さらに、本年3月、東京電力は核物質防護の強化に向けて、柏崎刈羽原発における IAEA 専門家ミッションのレビューを受けています。これに加え、IPPAS ミッションは、改正核物質防護条約の完全な履行を含む核セキュリティ体制の強化に有益であり、日本は、本年7月末から、3度目となるミッションを受け入れる予定です。

最後に、日本は、IAEA の核セキュリティ人材の育成を支援するため、IAEA 核セキュリティ基金に対する拠出のほか、日本原子力研究開発機構(JAEA)核不拡散・核セキュリティ総合支援センター(ISCN)による人材育成支援と技術協力を継続してきました。

ISCN は、これまで 6000 名以上の人材を育成してきており、この度、トレーニングセンターである実習フィールドの整備や、IAEA 核セキュリティ教育ネットワーク(INSEN)への加盟により、人材育成能力を更に強化しています。引き続き、日本として人材育成に貢献します。

また、本年は我々国連安保理決議 1540 採択から 20 周年の節目を迎えます。非国家主体への核不拡散という課題に対しても、我々は総力を挙げて取り組んでいく必要があります。

3. 結語

核セキュリティ強化に向け我々が一層連携を強化していく際には、グロッシェ事務局長の卓越したリーダーシップの下でその活動を進める IAEA という国際的な権威を、皆で一致団結して守り、育んでいくことが極めて重要です。

「大いなる力には、大いなる責任が伴う」という言葉で締めくくりたいと思います。核セキュリティを確保する一義的な責任は、それぞれの国家にあります。原子力という便利で巨大な力を利用するにあたっては、それぞれの国家が高い倫理観を維持し、核セキュリティの確保に最大限の努力を払わなければなりません。

我が国は、IAEA や各国と連携しながら、国際社会における最高水準の核セキュリティの確保に貢献し続けます。核セキュリティの責任に共に取り組みつつ、原子力の平和的利用を更に推進することで、「『明るい』未来を切り開いて」いきましょう。

ありがとうございました。